

文-75

V(ら)れます(受身)

N1	は/が	N2	に	V(ら)れます
----	-----	----	---	---------

N1: Vの行為の受け手

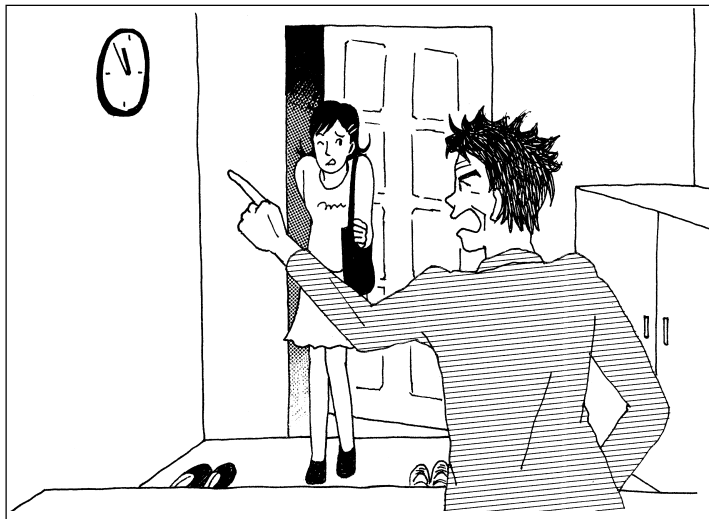
N2: Vの動作主

V(ら)れます: 受身形

基 本

例 文

- ① わたしはおばあさんに道を聞かれました。
- ② 姉は、夜遅く帰って、父にしかられました。



例文②

- ③ 財布を落としたので交番へ行ったら、おまわりさんにいろいろ質問されました。
- ④ 子供のとき、犬にかまれたことがあります。
- ⑤ A: どうしたんですか。うれしそうですね。
B: スピーチがじょうずにできて、日本語の先生にほめられたんです。

解説

- A. Vの動作を、その動作の受け手(N1)の立場で述べるときに使う。(例文①～⑤)
- B. N1が話し手、またはだれかわかっている場合は、「N1は/が」が省略されることがある。
(例文③～⑤)

発 展

例 文

- ⑥ 2000年に沖縄でサミットが開かれました。
- ⑦ この歌は、カラオケでよく歌われています。

解説

- C. 社会的事実を述べるときに使う。その場合、動作主(N2)は特定されない。(例文⑥⑦)

先生へ

Vは他動詞。(p.280参照)

話し手の意志に関係なく起こったことで、迷惑と感じる動作、行為を述べるときに使う用法はここでは扱わない。

- 例1 突然雨に降られて、ぬれてしまいました。
- 2 友達に0点のテストを見られて、はずかしかったです。

【関連項目】

活-08 受身形

【「れんしゅう編」の練習】

- 19-3 十二支の中にねこがない理由
- 19-6 山田さんへの手紙
- 19-7 ホームステイの報告
- 20-6 いろいろな未来